

国際化学肥料ニュース (2016年6月)

肥料業界の2016年6月動態

- * 5月末から6月初め、IFA（国際肥料工業会）化学肥料業界交流会がロシアのモスクワで開催された。主な話題は加里肥料であった。昨年下半期から加里肥料の需要不振で大手加里メーカーが減産と値下げで対応していたが、限界に来ている。現在、加里肥料関係者は大手加里メーカーが中国及びインドとの間に行っている2016年塩化加里輸入基本契約に関する協議に関心を集めている。

IFA 会議の間に中国から塩化加里 CFR 価格 180 ドル/トン を非正式に打診したが、大手メーカーが一致して拒否した噂がある。また、中国は自給率の上昇と在庫量が多いことを理由に、2016年の塩化加里輸入基本契約を結ばず、スポット輸入に依存するという噂もある。

一方、インドは塩化加里の国内在庫量が不足で、大手メーカーとの間に6~7月に2016年塩化加里輸入基本契約を締結するだろうと推測される。

- * 6月27日、インドとベラルーシ BPC 社が2016~2017年度の塩化加里輸入基本契約を締結した。輸入数量70万トン、CFR 価格 227 ドル/トンで、昨年の基本契約(CFR332ドル/トン)より105ドル/トン値下げられた。慣例として、BPC社との契約を締結してから数週間以内にロシアやカナダの加里メーカーも同じ価格で基本契約を締結する。

インドの塩化加里輸入基本契約の締結を受け、肥料業界は現在行っている中国と加里メーカーとの2016年塩化加里輸入基本契約に関する商談に注目している。

- * 東アフリカ共同体諸国は農業生産を促進するため、化学肥料工場の建設に力を入れた。2015年、豊田通商がケニアのエルドレッドに12億ドルを投資して生産能力15万トンの化成肥料工場を建設し、今年8月完成する予定である。また、東アフリカ諸国が出資した East Africa Fertilizer 社もケニアに3億ドルを投資して生産能力10万トンの化成肥料工場を建設している。タンザニアにはデンマーク・ドイツ・パキスタンから30億ドルの投資を受け入れ、アフリカ最大の化学肥料工場（生産能力120万トン/年）を建設して、2020年完成する予定。ウガンダも中国から12億ドルの投資を受け入れ、化学肥料工場を建設する予定である。2030年に地域内の化学肥料自給率を80%以上にする計画である。

- * 中国税関の最新統計データによれば、今年1~5月の肥料輸出量が1025万トン、前年同期より28.1%減少し、金額では41.9%減の24.63億ドルであった。輸出肥料の内訳

は尿素が 28.9%減の 433 万トン、DAP が 35.3%減の 137 万トン、塩化加里と硫酸加里が 43.3%減の 11.57 万トンであった。肥料輸出量が大幅減少した理由は、インド、ブラジルなど肥料需要の減少と中国肥料の価格メリットが失ったと言われる。

一方、1～5 月の化学肥料輸入量が 380 万トン、前年同期より 5.6%減少し、金額では 13.8%減の 12.34 億ドルであった。輸入肥料の約 79.5%は塩化加里で、数量が 302 万トンであった。ほかに NPK 化成肥料 56 万トンも含まれている。

* 2016 年 1～4 月、ブラジルが 270 万トン化学肥料を生産したが、国内生産量の倍以上の 565 万トン化学肥料を輸入した。輸入化学肥料のうち、約 20%の 114 万トンが中東湾岸地域から輸入されたもので、主に尿素と DAP である。

* インド政府はこれから 3 年間尿素の小売価格を値上げないことを表明した。インド政府化学品と化学肥料省大臣 Anant Kumar 氏は、2015 年インド国産尿素が 2450 万トンに達し、今年から 2550 万トンを超えることが確実となる。インド国内には 30 社の尿素メーカーがあり、現在稼働率 120%で運転している。一方、インド農薬と化学肥料商連合会の担当部長 Hansraj Gangaram Ahir 氏も、メーカーと販売商が政府の姿勢に協調して、農産物の自給率と農家の収益を守るため、特別な事情がない限り尿素価格の上昇が考えられないと表明した。

* 中国国家统计局の最新データによれば、中国 5 月の化学肥料生産量 624.98 万トン（純成分に換算、以下同）、前年同期より 0.8%減であった。1～5 月の累計では 3098.3 万トン、前年同期より 4.1%増であった。

その内訳は、窒素肥料の 5 月生産量が 2.5%増の 417.54 万トン、1～5 月の累計では 5.7%増の 2095.65 万トン。りん酸肥料の 5 月生産量が 2.2%減の 146.23 万トン、1～5 月の累計では 0.2%増の 734.42 万トン。加里肥料の 5 月生産量が 9.26%減の 57.9 万トン、1～5 月の累計では 11.68%増の 241.18 万トン。

大手各社の営業業績

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

* チリ SQM 社は硝酸加里生産能力の増強に動き出した。まず、現有工場の硝酸加里装置を増強して生産能力を拡張する。2016 年に 10 万トン、2017 年にもさらに 10 万トンの生産能力を増加する。

また、新たに塩化加里を原料とする硝酸加里工場を建設する計画も発表した。生産能力 30 万トン/年、建設地と投資額は今年第 3 四半期に確定する。2025 年硝酸加里生産能力を 2015 年の 50 万トン/年から 150 万トンに引き上げる。

- * トルクメニスタン西部のバルカン州に建設中のガラボガズ尿素工場が順調に進んで、計画通りに**2018**年完成する予定である。当該尿素工場は日本三菱商事・三菱重工とトルコの**GAP**社が受注したもので、生産能力アンモニア**66**万トン、尿素**115.5**万トンである。投資額約**13**億ドル。

その他

- * 爆弾テロを防ぐため、トルコ政府農業省は**6月8日**から硝酸塩製品の輸入と国内販売を禁止することを発表した。**6月7日**発生した**11**人死亡の自動車爆弾テロ事件は爆弾の製造に肥料用硝安を使ったことを判明したためである。

トルコ農業省の発表資料によれば、硝酸塩は硝安のほか、硝酸加里、硝酸ナトリウム、硝酸カルシウム・アンモニウムも禁止措置に含まれる。国内の硝酸塩生産が輸出を除き、すべて停止され、輸入も禁じられる。現在在庫している硝酸塩は国が全量買い上げ、処分する。

トルコは年間硝安約**30**万トン、硝酸カルシウム・アンモニウム約**70**万トンを生産して、ほとんど肥料用である。それでも足りなくて、毎年約**60**万トンの硝安と数万トンの硝酸加里、硝酸ナトリウムを輸入している。

- * **6月12日**、アメリカ国際貿易委員会（ITC）は中国産硫安の不当廉売と中国政府の不正輸出補助金に関する初期調査を開始すると発表した。**5月25日**アメリカの硫安メーカーPCI社（本社テキサス州）はアメリカ政府に中国産硫安の不当廉売に対する調査を申請した。申請後、PCI社はアメリカ国際貿易委員会（ITC）の質問に対して中国産硫安が市場価格より低い値段でアメリカに輸出して、アメリカ産硫安の生産と販売に打撃を与える。また、中国産硫安が安い価格で輸出できるのは中国政府の輸出補助金の存在が大きな要因であると返答した。

本件調査について、関係者双方が**6月15日**にワシントンに開かれる調査会議に意見を述べる予定である。また、アメリカ国際貿易委員会（ITC）はすでに中国メーカー、アメリカ輸入商社、アメリカメーカーに調査書を発送し、具体的なデータを収集している。特別な事情がない限り、**30**日後の**7月11日**に当該調査を終了し、最初判断を下す予定である。

- * また、**6月15日**、アメリカ政府商務省も中国産硫安の不当廉売と不正補助金に対する調査を開始すると発表した。アメリカ硫安メーカーPCI社は中国産硫安の不当廉売指数が**250.81**～**493.46**%、中国政府の補助金が硫安価格の**2**%をはるかに超えたと指摘した。**2015**年アメリカに輸入された中国産硫安の金額が約**6825**万ドルであった。

アメリカ法律によれば、アメリカ商務省はアメリカ国際貿易委員会（ITC）の中国産硫酸の不当廉売と不正補助金に対する最初判断に基づき、当該調査の継続または中止を決定する。

- * ロイター社の報道によれば、アメリカ Mosaic 社がブラジル Vale 社の肥料部門を買収することに動き出した。Vale 社は世界最大の鉄鉱石供給者で、世界第 2 位の鉱業会社である。Mosaic 社が Vale 社の肥料部門を買収することにより、Vale 社が持つブラジル国内の肥料販売網のほか、ブラジル国内の加里鉱山と世界に展開しているりん鉱山や加里鉱山の開発事業も手に入れる。Vale 社肥料部門の評価額が約 30 億ドル、Mosaic 社が現金と自社株の形で支払う可能性が高い。買収行動が成功すれば、Vale 社が Mosaic 社の約 12~15%株式を持ち、第 1 位の株主になる可能性がある。

Mosaic 社は 1170 万トンのりん酸肥料生産能力を有し、世界最大のりん酸肥料メーカーである。ほかに約 1000 万トンの加里肥料生産能力も持っている。一方、Vale 社がブラジル国内最大の肥料販売業者とともにブラジル唯一の生産能力 62.5 万トンの加里鉱山と塩化加里精製設備を有する。また、ペルーにも Mosaic 社と一緒に採掘量 390 万トン/年のりん鉱山を所有する。鉄鉱石の需要減少と価格低迷により、2014~2015 年 Vale 社が最悪の赤字状態に陥った。今回の売却で得た現金は 100 億を超えた借入金の返済に充てる予定である。

- * 中国からの報道によれば、不適切な耕作方式と施肥により中国耕地の劣化が進んでいる。不適切な施肥により耕地の酸性化が進み、2015 年の主な耕地土壌 pH 値が 2002 年に比べ、0.13~0.8、平均で 0.5 低下した。過剰施肥と不適切な灌漑によりハウスなど施設栽培土壌に塩類集積現象がよく見られ、土壌塩分 600 μ S/cm を超え、植物生育に適しない土壌が施設栽培面積の 28%以上を占める。主にりんと加里の過剰施用による塩類集積である。

微量元素欠乏の耕地も広く発見された。2002 年の古いデータでは耕地面積の中に亜鉛欠乏が 65.8%、鉄欠乏が 24.4%に達し、現在ではさらに拡大している。また、中国南部では苦土欠乏、東北、河南、内モンゴルでは硫黄欠乏、東南地域の海沿いではカルシウム欠乏がよくみられる。

耕地の土壌汚染も大きな社会問題になった。2014 年 4 月発表した中国政府の「全国土壌汚染調査報告」によれば、汚染された耕地土壌が全耕地面積の 19.4%、その内訳は重金属汚染土壌が 16.67%、残りは化学系有機物汚染であった。